

大規模災害時の 死者0(ゼロ)を目指して



徳島県知事
飯泉 嘉門

温暖な気候の徳島県は、世界一の「鳴門の渦潮」をはじめ、四国三郎「吉野川」、西日本第2の高峰「剣山」、海岸線に広がる「美しい海」といった豊かな自然に恵まれ、「なると金時」、「すだち」、「阿波尾鶏」、「鳴門わかめ」に代表される安全・安心で美味しい食材を数多く育てています。

一方、県内には、県土の約8割を山地が占める急峻な地形や約13,000の土砂災害危険箇所を抱えており、毎年のように台風が来襲し、「南海トラフ巨大地震」や昨年の熊本地震や鳥取県中部地震と同様の「直下型地震」である「中央構造線・活断層地震」の発生も危惧されるなど、大規模自然災害の発生リスクが高い地域となっています。

このため、徳島県では、地震・津波被害から「助かる命」を助け、「助かった命」をつなぐ「とくしまー0(ゼロ) 作戦地震対策行動計画」、さらには、あらゆる大規模自然災害に備えるべく全国に先駆け策定した「徳島県国土強靱化地域計画」に基づき、県を挙げた「防災・減災対策」を強力に推進しています。

平成24年12月には、「巨大地震」を迎え撃つための「徳島県南海トラフ巨大地震等に係る震災に強い社会づくり条例」を制定し、自らの生命・財産は自らで守る「自助」、自分たちの地域は自分たちで共に支え合う「共助」、行政が震災に強い社会づくりを進める「公助」、それぞれの責務と役割を明確化するほか、全国で初めて、津波からの迅速な避難を促す「津波災害・警戒区域(イエローゾーン)」を、都道府県で初めて、活断層直上において特定の建築物の建築を避けさせる「特定活断層調査区域」を指定致しました。

さらに、災害関連死等の「防ぎ得た死」をなくすべく、平時と災害時のシームレスな医療提供体制の構築を目指す「戦略的災害医療プロジェクト」を展開し、避難所運営に女性や高齢者の視点を反映した「快適避難所運営リーダー」を養成するほか、全県的な災害時の情報共有基盤となる「災害時情報共有システム」の構築などに、積極的に取り組んでいます。

そして、熊本地震での教訓を踏まえ、現在、避難所の「安全確保」や「トイレ環境の向上」、国や他の自治体等との「応援・受援体制の強化」、「中央構造線・活断層地震」の「震度分布図」と「被害想定」の策定などの取組みを加速させているところです。

今後とも、過去の災害で多くの人々が口にした「想定外」という言葉を二度と繰り返さない、刻一刻と迫る「南海トラフ巨大地震」をはじめ大規模自然災害を迎え撃つとの強い決意のもと、大規模災害時の「死者0(ゼロ)」を目指した「防災・減災対策」に全力で取り組んで参ります。